HP 評価（木）―20―014－1

評　価　書

株式会社　栗山百造
　代表取締役社長　栗山　政義　様
株式会社　ダイドーハント
　代表取締役社長　肌勢　宜記　様

令和元年８月30日付で申請を承諾した下記の構造方法に係る構造耐力性能評価については、ハウスプラス確認検査株式会社において慎重審議の結果、評価報告書のとおり構造耐力上支障ないものと評価する。

令和３年６月２日

ハウスプラス確認検査株式会社
代表取締役社長　吉田　正司　㊞

記

1．構造方法

「フロッキン狭小壁」／厚 12mm、910mm×452mm、構造用合板２枚／クリスパイラルビス44 本／柱間芯々寸法 350mm／壁高さ 2300mm 以上 2800mm 以下／２又は３階仕様／木造軸組工法建築物に用いる鉛直構面

2．評価事項

①短期許容せん断耐力（Pa）　②せん断剛性（K）　③検討用短期許容せん断耐力

3．評価結果

種類	壁高さ (mm)	①短期許容せん断耐力 Pa (kN)	②せん断剛性 K (kN/m)	③検討用短期許容せん断耐力 (kN)
中柱型 標準納まり	2600を超え2800以下	3.11	Pa×120/H (H：横架材天端間高さ(m))	3.39 ×β
	2300を超え2600以下	3.39		3.55 ×β
	2300	3.55		3.55 ×β
隅柱型 標準納まり	2600を超え2800以下	2.88		3.20 ×β
	2300を超え2600以下	3.20		3.36 ×β
	2300	3.36		3.36 ×β
隅柱型 直交梁勝ち納まり	2600を超え2800以下	2.59		2.90 ×β
	2300を超え2600以下	2.90		3.02 ×β
	2300	3.02		3.02 ×β
隅柱型 通し柱納まり	2600を超え2800以下	2.59		2.89 ×β
	2300を超え2600以下	2.89		3.02 ×β
	2300	3.02		3.02 ×β

（壁長さ 350mm 当たりの数値を示す）

項目		壁高さ(mm) 2300以上2600以下	壁高さ(mm) 2600を超え2800以下
柱の断面(mm)（見付け×見込み）	105× 105	1.00	1.00
	120× 105～120	1.15	1.20
	135× 105～135	1.24	1.33
	150× 105～150	1.30	1.43

ここで、当該耐力壁を梁上に配置する場合は、「木造軸組工法住宅の許容応力設計 2017 年版（公財日本住宅･木材技術センター）」に従い剛性低減を行うとともに、短期許容せん断耐力（地震力・風圧力に対する鉛直構面の検定時及び階別の許容せん断耐力検定時）についても同低減を行うものとする。また、当該耐力壁直下の梁が短期および終局において破壊のないことを計算で確認することとする。

4．鉛直構面の適用範囲、条件その他

評価報告書のとおり

以上

この用紙には、不正防止の処理を施してあります。